

透析中の運動療法と透析効率の関係性について

(医)財団はまゆう会 新王子病院

都裕樹 尾ノ上美樹夫 大塚賢二

瀬川賀世子 西島博満 箆島明彦 田中孝夫

【背景・目的】

当院では透析患者における PAD の予防改善を期待し透析中の運動療法を行っている。今回、透析排液中の溶質濃度を連続的に測定する日機装社製排液量モニタ：Dialysis Dose Monitor（以下 DDM）の使用機会を得たので透析中の運動療法と透析効率の関係性について検討した。

【方法】

当院維持透析患者 4 名(男性 2 名 女性 2 名 平均年齢 61 歳 平均透析歴 3.75 年 平均透析時間 4.75 時間)を対象に DDM を使用し運動日と非運動日の Kt/V と PRR plasma refilling rate (PRR) の透析効率を比較検討した。

【結果】

Kt/V は非運動日に比べ運動日の方が高値であった。PRR では運動中は低値で、運動終了 1 時間後は高値を示した。運動中と HD 終了までは運動日が高値であった。

【考察】

Kt/V と PRR 共に、運動日と非運動日で有意差は見られなかった。PRR に関して運動中から運動後に除水速度を超える時間帯も見られ、末梢の細胞内外の入れ替えが起きたと考えられる。

【まとめ】

非運動日より運動日の方がよい結果がみられた。透析中の運動療法は有用であると考えられ、今後も継続していきたい。